

施策評価シート（平成30年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期 プラン	政策No.	3-2	政策名	学校教育の充実	政策の 目指す姿	夢と希望を持ち、たくましくいきいきと育っています	施策 主管課	学校教育課	施策主管 課長名	中村 哲
	施策No.	2	施策名	豊かな人間性の育成	施策の 目指す姿	児童生徒が、郷土を誇りとし、自己肯定感や思いやりの気持ちを持っています	関係課名			
	現状と課題	・生徒会ボランティア活動や復興教育活動等を通して、児童生徒の思いやりの心がはぐくまれ、地域の行事に多くの児童生徒が参加しています。								

◎ 前年度の評価の振り返り

（前年度評価時の今後の方向性）

・各学校において適切な事業実施、積極的な事業活用を図り、体験的な学習の推進を支援するため、効果的な学習・工夫した体験を実施している学校について紹介する機会を設定するなど、事業の充実を図っていく。

（反映状況）

・伝統文化教育実践校（研究指定校：大迫中）においては、効果的な学習工夫した体験（教育課程）について、研究成果をまとめ（リーフレット）、市内外に配布することができた。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1)

- 児童生徒表彰
 - ・体育・文化等の活動において顕著な成績を収めた児童生徒を表彰
- 伝統文化教育実践
 - ・大迫中学校における伝統文化教育の活動実践
- 芸術文化活動の推進
 - ・花巻市中学校文化連盟事業の補助、大迫中学校伝統文化教育の実践
- キャリア教育の推進
 - ・地域の風土・資源・伝統・人材を活用した体験的な学習、復興・防災教育の実施、児童会・生徒会によるボランティア活動の実践

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1
自己肯定感を持った児童生徒の割合	岩手県学習定着度状況調査では、質問紙調査を併せて実施しており、設問内容は自己肯定感を測る指標として適当	問)自分には良いところがあると思いますか (1)ある、(2)どちらかといえばある、(3)どちらかといえばない、(4)ない	%	目標値	小77.0 中66.0	小78.0 中67.5	小80.0 中70.0	小80.0 中70.0	小80.0 中70.0	小80.0 中70.0
				実績値	小78.0 中66.5	小78.0 中67.5	小79.0 中69.0	小79.0 中76.0	小78.0 中74.0	
親切・思いやりの心を持った児童生徒の割合	岩手県学習定着度状況調査では、質問紙調査を併せて実施しており、設問内容は親切・思いやりの心を持っているかを測る指標として適当	問)人が困っているときは進んで助けますか (1)助けている、(2)どちらかといえば助けている、(3)どちらかといえば助けていない、(4)助けていない (1)、(2)と回答した児童及び生徒の割合で測る。(小5及び中2の値)	%	目標値	小95.0 中91.5	小94.0 中94.0	小96.0 中92.5	小95.0 中95.0	小96.0 中96.0	小97.0 中97.0
				実績値	小97.0 中92.0	小94.0 中94.0	小97.0 中96.0	小98.0 中96.0	小96.0 中96.0	

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>■成果指標「自己肯定感を持った児童生徒の割合」・・・【達成度 小学校b 中学校a】 小・中学校ともに昨年度と比べて自己肯定感が1～2ポイント低下しているが、ほぼ目標値に達していることから、各学校において事業の活用や日々の教育活動を通して、児童生徒の自己肯定感を高める指導が行われたと考える。</p> <p>■成果指標「親切・思いやりの心を持った児童生徒の割合」・・・【達成度 小学校 a 中学校 a】 復興教育における被災地支援や児童会・生徒会ボランティア活動支援事業等の成果が表れ、思いやりの心が育っていると考える。</p>

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		
			対象 直結度	意図 直結	成果
1	児童・生徒表彰事業 体育・文化等の活動において顕著な成績を収めた児童生徒を表彰 (児童生徒栄誉賞受賞者数:393名)	学校教育課	間接・ 少数	直結	B
2	中学校伝統文化教育実践事業 大迫中学校における伝統文化教育の研究を支援	学校教育課	一致	間接・ 補完	B
3	学校文化活動事業 花巻市中学校文化連盟事業補助、音楽コンクール等出場補助 (7件)	学校教育課	一致	間接・ 補完	-
4	キャリア学習支援事業 小・中学校における地域体験学習、被災地訪問・防災教育などの復興教育、生徒会等によるボランティア活動への支援	学校教育課	一致	間接・ 補完	B

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)
・なし

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

・キャリア学習支援事業においては、東日本大震災を風化させないためにも、今後も被災地訪問等、復興教育の充実が望まれる。
・学校文化活動事業においては、コンクール等の出場補助を支援しているが、補助実績件数増加を図るため、事業内容の一層の周知を図る。

(新たに取り組むべき事業はないか)

・なし

6 施策の総合的な評価

(課題)

・キャリア学習支援事業(復興教育、ボランティア活動、地域体験など)では、体験的な学習の充実により、自己肯定感や思いやりを持った児童生徒が育成されているが、各学校での活動を今後も継続支援していくことが肝要である。

(今後の方向性)

・各学校において適切な事業実施、積極的な事業活用を図り、体験的な学習の推進を支援するため、効果的な学習・工夫した体験を実施している学校について資料を用いて市内各学校に紹介することにより、事業の周知と効果的内容の普及を図っていく。